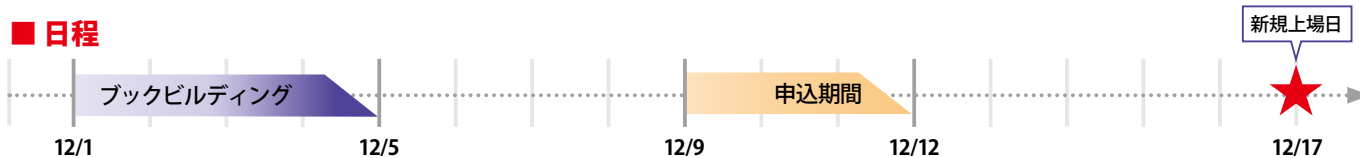


IPO銘柄 今村証券 (7175・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
7175	100 株	公募: 50.00 万株 売出: 0.00 万株 (OA7.50 万株)	1,150 円 ~ 1,350 円 (-)	みずほ証券



金沢市に本店を置く北陸地方最大手の証券会社

■ 事業内容

石川県金沢市に本社を置く北陸地方最大手の証券会社。金融商品取引業を中核とする投資、金融サービス業が主力。金沢市の本店を中心に小松支店、福井県の福井支店、富山県の高岡支店など、北陸3県に9店舗を展開。地元密着の営業活動を行っている。直近の収益は引受け・売出しなどの手数料、募集・売出しなど取扱い手数料、その他の受入手数料など、委託手数料以外の受け取り手数料がメインで、トレーディングや金融収益は例年5%以下。投資情報は地の利を生かして北陸地域の上場企業を取材した独自リポートを発行している他、ドイツ証券との提携によってネット取引口座内でドイツ証券のレポート「ジャパン・デیلیー・フォーカス」を閲覧できるサービスも行っている。投資・金融サービス業の単一業態。

■ 特徴

大正10年3月に金沢米穀取引所での取引を目的に今村直治商店として創業。昭和19年に今村証券を設立して証券業に転身した。地元密着、顧客主義の経営方針は徹底されており、平成11年にインターネット取引「アイ・ルート」を開始、ネット取引でも顧客との関係を重視して顧客一人ひとりに営業員が付き、きめ細やかなアドバイスを行っている。

アナリストコメント

■ 定量分析

15年3月期の非連結経常利益は前期比52.6%減の7億4,700万円を計画する。証券各社は14年3月期の活況地合いの反動から今期業績は苦戦しており、同社も大幅減益見込み。IPOマーケットが活況な中で証券会社の上場ではあるが、業績面でも見劣りしてしまっている。

■ 定性分析

地方証券会社であり、成長性への期待は乏しい。証券市場でも、東京都内支店がないことなどから知名度が低く、参戦妙味の乏しい案件とみられてしまいそうだ。12月唯一のジャスダック上場案件であるが、それも特段の手掛かりにはならなそう。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は7.8億円程度。ベンチャーキャピタル保有株もなく、需給面は良好と言える。IPO案件としての魅力は乏しいが、需給面には妙味が大きく、初値は需給主導の展開となりそう。下値への不安は乏しそうだ。(小泉健太)

■ 類似企業

今村証券(7175・JASDAQ)	予想PER— (仮条件上限)
丸八証券(8700・JASDAQ)	予想PER—
東洋証券(8614・東証1部)	予想PER—

■ 引受証券

みずほ証券、東海東京証券、岡三証券、マネックス証券、香川証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
13年3月期(実績)	2,476	40.1	466	黒転	274	黒転	131.5	5.0
14年3月期(実績)	4,009	61.9	1,575	3.4倍	852	5.1倍	409.0	7.5
15年3月期(会社予想)	3,167	▲21.0	747	▲52.6	449	▲47.2	201.8	7.5

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
13年3月期	2,085,000	9,956	4,770	500	2,288.1	47.9	6.0
14年3月期	2,085,000	11,537	5,657	500	2,713.7	49.0	16.4

大株主上位（上場前）

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	今村 直喜	656,400	31.48
2	今村 九治	250,470	12.01
3	今村コンピューターサービス	250,020	11.99
4	今村不動産	227,640	10.92
5	今村証券社員持株会	218,720	10.49
6	今村 和子	101,520	4.87
7	今村 千加子	67,200	3.22
8	米田 信昭	46,130	2.21
9	今村 之希有	45,000	2.16
10	松本 芳男	35,340	1.69

経営陣

	役職	氏名
取締役社長(代表取締役)		今村 九治
常務取締役 管理本部長		吉田 栄一
常務取締役 営業本部長		寺下 清隆
取締役 検査部長		松本 幹生
取締役 総務部長		大崎 憲一
取締役 営業業務部長		宮田 秀夫
取締役 営業事務部長		今村 直喜
監査役(常勤)		藤井 由治
監査役		中島 史雄
監査役		中村 善宏

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO（Initial Public Offering）：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。